

アイヌ民族の漁具・木盆

—2018（平成30）年度新収蔵資料の紹介 1—

大坂 拓

目次 はじめに

- 1 近藤聖氏寄贈資料
- 2 種田泰江氏寄贈資料

Key Words アイヌ民族（Ainu）、突鉤（Salmon spear）、木盆（Wooden tray）

はじめに

本稿は、平成29年12月から平成30年11月末日までに登録を終えたアイヌ民具についてその概要を紹介するもので、対象となる資料は漁具3点、木盆1点である。

1 近藤聖氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

寄贈者の近藤聖氏が、御尊父近藤忠雄氏（平成15年11月9日没）より受け継いだ漁具計3点（図1）である。

いずれも忠雄氏が教員として勤務していた日高管内（平取・厚賀・様似等）で譲り受けたものと考えられ、聖氏は忠雄氏が生前、来客に対して使用方法などを説明している様子を記憶しておられた。忠雄氏に譲り渡した人について氏名等は不詳であり、おそらくアイヌ民族と思われるが確証はないとのことである。

本資料は資料審査会（平成29年12月20日開催）で受け入れが承認され、資料番号は184335～184337となっている。

(2) 資料の特徴

184335（図1：1）は、長さ37.5cm、長径2.6cm、短径2.3cmの木製の先柄に、長さ12.5、幅9.8cmの鉄製の鉤を取り付けたもので、アイヌ語北海道方言でmarek（中川1995）と呼ばれるものに該当する。鉤の取り付けは、全長46.0cmと33.5cmの革紐を重ねたものに綿糸で縛りつけて固定する方法をとっている。先柄は着柄面を除くほぼ全面に焦がし加工がなされており、使用時に木肌を見て標的となる魚が逃げることを防ぐ工夫の可能性があり。先端部や紐穴の周辺に使用痕が認められることから、

実際に漁労活動に使用されていたものと見られる。

同時に寄贈されたヤス2点は、いずれも三又で先端部に「かえし」がある。184337（図1：2）は、長さ15.1cmの先端部及び口金のみが保管されている。184336（図1：3）には、長さ77.8cm、直径2.7cmのマツ材製の先柄が付属し、全長は91.8cmとなっている。

ヤスは名称が日本語に由来し、知里真志保によって「アイヌ本来の漁具ではなかった」（知里1959：247）とされたこともあって、いわゆる「伝統的」アイヌ文化の範疇に含まれないこともあるが、古くから盛んに使用されていたこともまた明らかで、本資料も昭和期の日高地方のアイヌ民族の生活文化を示す可能性がある。

2 種田泰江氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

寄贈者の種田泰江氏が、祖母宮田ヒデ氏（昭和62年没）の遺品として受けついだアイヌ民族の木盆1点（図2：1～4）である。

ヒデ氏は明治末年に来道し、大正初期に結婚して札幌市内に居住され、のち小樽に転居し、亡くなるまでを過ごされた。木盆はこの間のいずれかの時点で収集されたものと考えられる。

本資料は資料審査会（平成29年12月20日開催）で受け入れが承認され、資料番号は184338である。

(2) 資料の特徴

長辺36.0cm、短辺25.2cmの長方形で、厚さは1.7cm。クルミの板目材を素材とし、木芯側が盆の表面を向く。表面には対向する「3」字を主要なモチーフとする文様が彫刻されている。全面に著しい摩耗が認められ、中心



1 資料番号 184335



2 資料番号 184337



3 資料番号 184336

図1 近藤聖氏寄贈資料

部付近では「鱗彫り」が完全に平面になるほど摩耗が進行した部分がある（図2：2・3）。長期間にわたって使用されたことを示すものだろう。

（3）類例

本資料に極めて類似した木盆として、市立函館博物館（収蔵番号：児玉Ⅱ-2648）、北方民族博物館（同：D15.1.1）、旭川市博物館（同：4638）、北海道博物館（図2：5）、国立民族学博物館（同：H0277699-H2077703）などの存在が知られている。

このうち国立民族学博物館所蔵資料は、極めて類似した特徴を示す盆5枚が一組で木箱に入ったものが、ほぼ未使用の状態で残されており、作り手が専門的に工芸品製作に携わっていた人物である可能性が想定できよう。ただし、現在のところ詳細な製作年代、製作者個人の特

定には至っていない。

寄贈者の種田氏によれば、ヒデ氏は生前に本資料について、「知里真志保の父が作った盆だ」と語っていたとのことである。知里真志保氏の父、知里高吉氏は、現在まで得られている情報による限り木彫で知られた人物ではないため、この情報を資料の来歴と判断することについては留保せざるを得ない。ただしこのような「逸話」の存在は、木盆にアイヌ民族出身の研究者として著名な人物ゆかりのものというエピソードが加えられ流通していたことを示しており、アイヌ民族の伝統的な民具をめぐる社会的な認識や情報のあり方を示す証言として貴重である。



1 資料番号 184338 表面



2 表面の摩耗の状況①



4 裏面



3 表面の摩耗の状況②



5 参考資料（北海道博物館所蔵 資料番号 45679）

図2 種田泰江氏寄贈資料及び参考資料

謝辞

本資料の寄贈者である近藤聖氏及び種田泰江氏には、貴重な資料を当館にご寄贈頂いたことに改めて深くお礼申し上げますとともに、本稿での報告についてご快諾賜ったことについて、重ねてお礼申し上げます。国立民族学博物館所蔵の関連資料については、同館齋藤玲子先生より情報をご教示いただいたことを明記し、末筆ながら感謝申し上げます。

引用文献

- 知里真志保1959, アイヌの鮭漁, 北方文化研究報告, 14: 245-265.
中川 裕 1995, アイヌ語千歳方言辞典, 草風館.

MATERIALS

Salmon Spears and Wooden Trays of the Ainu:

Introducing New Acquisitions to Hokkaido Museum's Collection in 2018

OSAKA Taku

This paper introduces in summary Ainu Materials which have been registered into collection during the period from December 2017 through the end of November 2018. These articles are three Salmon Spears and one wooden tray.

Item 184335 (figure 1-1) corresponds to an object called *marek* in the Hokkaido dialect of the Ainu language, and was donated together with two Salmon Spear (figure 1-2 and 1-3). It is highly likely that these objects were used by Ainu people

of the Hidaka region.

Collection number 184338 is a walnut wooden tray (figure 2-1 through 2-4). Many similar objects are known, in collections such as the Hakodate City Museum (collection number Kodama II-2648), Museum of Northern Peoples (collection number D15.1.1), Asahikawa City Museum (collection number 4638), Hokkaido Museum (figure 2-5), and National Museum of Ethnology (collection numbers H0277699-H2077703).